

羅針盤



2017年11月15日(水) 第27号

＝ 11月のことば ＝

長い目で見れば、努力のない才能よりも、才能のない努力の方が、より多くのことを成し遂げるものだ。

(ジョン・ラボック(英国の考古学者・銀行家))

明日から後期中間考査。全力で！！

	1校時	2校時	3校時
16日(木)	国語総合(現文)		英語表現Ⅰ
17日(金)	数学 A		生物基礎
20日(月)	コミュニケーション英語Ⅰ	現代社会	国語総合(古典)
21日(火)	数学Ⅰ		物理基礎

「定期考査に関する注意事項」から

- 9 やむを得ず欠席するときは、保護者が学校に連絡し、後日その理由を記した追考査受験願(病気で欠席した時には病院を受診したことが確認できる資料を添付する)を提出する。

“気分が悪くて家で寝ていました”は「追考査」の対象になりません。必ず病院を受診してください。病院の領収書や処方箋のコピーなど、病院を受診した事実と受信日、受診した本人氏名が確認できるものが必要です。「診断書」までは必要ありません。

- 10 不正行為は絶対にしない。不正行為が確認された場合には、特別指導の対象とするとともに、それ以降の受験は認めない。当該科目を含め、その考査全科目の得点を0点とする。
- 11 私語・わき見・消しゴム等の筆記用具の貸借など、不正行為と疑われるようなことはしない。

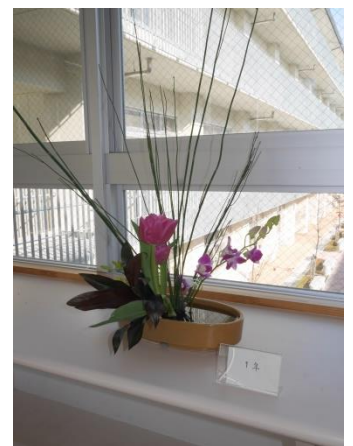
カンニングと疑われるような行動も決してとらないことが大切です。しっかりと最後まで自分の前にある問題と答案に向き合う

＝ 芸術の秋 ＝



城守りの松こけ茂る青々と (1-3 鈴木 沙菜)
 雪解を想い眺める鉄門 (1-5 伊藤 結巳)
 秋空の青に映えうる赤瓦 (1-8 三井 樹)
 秋空に映ゆる赤瓦いとをかし (1-5 根本みのり)
 秋天に鮮やかに咲く赤瓦 (1-5 橋本 風咲)

10月5日(木)に文芸部が参加した「平成29年度文芸研修会」で、会津若松市の鶴ヶ城・飯盛山にて詠んだ俳句です。



(西側渡り廊下で、華道部の生け花が展示されています。左右は1年生の作品です。)

「福島子どもの未来を考える会」という団体が、ベラルーシからの招待を受け2012年から中高生の派遣事業を行っています。今年も7月31日から8月11までベラルーシを訪問しています。今年ベラルーシを訪問した県内の中高生約50名の中には、黎明17期生もいました。とてもいい経験ができたようですね。

「福島子どもの未来を考える会 in ベラルーシ2017」に参加して

1年2組 笠原 麻由

私は今年の夏にベラルーシに行きました。中学生の時にベラルーシ派遣団の募集を見つけたのがきっかけです。海外に行きたいという小さいころからの夢や、福島県の復興を考えるために原発事故の被害を受けた場所を見たいという想いが重なり今回の応募に踏み切りました。

審査が終わり、派遣団が結成されて一緒にベラルーシに行く中学生や高校生と会いました。それぞれ少しの違いはありましたが、自分の生まれ育った福島の復興を真剣に考えていて、今までになかった出会いを感じました。

7月31日、私たちはベラルーシに向けて出発しました。日本からの直行便はないのでアラブのアブダビ空港で乗り換えをします。15時間のフライトでベラルーシに到着し、宿泊施設ズプリョノクに向かいました。ズプリョノクはチェルノブイリ原発事故が起こった際に、放射線の被害を減らそうと政府が設立した保養施設です。事故当時のベラルーシは貧しく、自分で避難することのできる国民が少なかったために、国が線量の低いところいくつか保養施設を作ったそうです。

私たちは現地の子供たちと同じ保養プログラムを受けました。アロマセラピーやソルトセラピー、松の木のオイルをたらしたジャグジーやリンゴの酸素ジュースなどを毎日体験し、ズプリョノクの自然に触れて心と体をリフレッシュしました。また、夜になると施設内にあるディスコやスタジアムでベラルーシの友達を作り、一緒にダンスをしたり、サッカーやバレーをしたり国際交流をしました。5日目と6日目にはベラルーシの首都、ミンスクを観光し歴史のあるお城や、ビルの建設の進む市内、また、放射線の線量計を作る会社などを見て回りました。日本では情報が少なく、今まで「ロシアのおまけ」のように感じていたベラルーシに大きな魅力を感じました。

今回の派遣を通して強く感じたことはベラルーシと日本の放射線に対する考え方の違いです。ベラルーシでは週に1回、学校で原発や放射線について学ぶ授業があるそうです。しかし私はあまり現在の原発周辺の様子について知らないなと思いました。また英語力の必要性についても強く感じました。単語は知っていても会話をしているとすぐには出てこなくて、もっと話せるようになる勉強をしようと思いました。このほかにも夏休みの10日間で考えたことは多くあり、行ってよかったと思っています。ベラルーシで出会った人との縁を大切に学んだことをこれからの人生に生かしていきたいです。

